

「平和のために私たちができること」

飯島小学校 6年竹組 中 島 心 寧

私が平和の朗読会で、学校司書の先生の、「はまなすはみた」の朗読を聞いて、なぜだれも戦争はのぞまないのに行われるのろうか、と思いました。

戦争とは、そもそも何なのでしょう。何が生まれて、何が残るのでしょうか。

それぞれの国の人たちは、自分たちが「正義」だと思って戦争という方法を選びます。だれも「こんなことはやめよう」と言えないのです。だれも逆らうことはできないのです。

土崎空襲は、身近な所で起こったものですが、今の土崎を見ると、信じられないような気持ちになりました。本当にここに数千、数万もの爆弾が落とされたのかと思いました。

はまなすの花が見てしまった地獄。防空ごうは直げきを受けて、中いた人たちは全員亡くなりました。石油タンクは爆発しました。人びとが逃げている時、何人かの人には光沼に落ちました。背おっていた赤ちゃんの首は無くなっていて、おじぞう様も何人かの子どもの身がわりになって、きずつきました。

このようなことは、絶対に起こってはいけないものです。私が戦争のためにできることは、かぎられています。戦争は、おそろしいものだときまざまな人によびかけて、忘れないようにしっかりと覚えることです。忘れてしまったら、また同じことがくり返されてしまうかもしれないからです。

戦争は、多くの人を命をうばい、悲しみにさらすものです。あらためて自分でできることは、ちっぽけだな、と思いました。ですがそのちっぽけな人の思いが積み重なって、大きな希望になると思います。どうか、このちっぽけな願いが大きな希望になって、世界にとどきますように。